

自己点検・自己評価報告書(平成30年度)

学校法人瓶井学園
日本メディカル福祉専門学校 臨床工学科
平成31年4月1日作成

1. 学校の教育目標

最先端医療分野を担うチーム医療のスペシャリストとして、臨床現場で必要となる基礎医療知識及び工学技術を持ち、かつコミュニケーション能力の高い優れた臨床工学技士を育成する。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- (1) 工学の基礎となる基礎理数系科目の理解度を向上させる。医療系分野においても課題を与えての問題解決能力の向上を狙う。
- (2) 臨床工学技士国家試験および第2種ME検定試験の合格率の向上を狙うため補講授業および試験対策授業の強化を行う。
- (3) 医療に携わる者として、また一社会人として必要となるマナーの習得を強化する。
- (4) 有識者や医療施設等の関係者からの意見を取り入れ、より実践的な知識・技能の修得を目指し、授業内容を充実させるとともに臨床現場で活躍する卒業生の特別講義を実施する。
- (5) 学生だけでなく、卒業生・保護者にも、本校の教育に対する理解を深めていただけるよう情報を発信する。
- (6) 教員の資質・指導力を向上させるために、学会や勉強会などへの参加の強化。
- (7) 学生数の減少に伴い、教員の役割分担を行い資料請求者への積極的な連絡および、各教員による週1回の高校訪問、大学訪問の実施、入学生を増加させるための取り組みの強化を行う。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1). 教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1	評価委員確認
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④ 3 2 1	
学校における職業教育の特色は明確か	④ 3 2 1	
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④ 3 2 1	
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4 ③ 2 1	
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④ 3 2 1	

【総括・特記事項】

- ・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などについて、教職員は熟知し、折に触れ学生に伝えており、対外的にはホームページ、学校案内などに記載しており、概ね周知されている。
- ・保護者に入学式の案内状を送付し、式への列席を促した。入学式後に保護者懇談会を開催し、保護者の方々にご出席いただいた。個別対応に関して希望者がいなかったため、全体の説明を行い、その後、実習室の施設見学説明を行いました。

(2). 学校運営

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1	評価委員確認
目的等に沿った運営方針が策定されているか	④ 3 2 1	
運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④ 3 2 1	
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④ 3 2 1	
人事、給与に関する規程等は整備されているか	④ 3 2 1	
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④ 3 2 1	
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④ 3 2 1	
教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	④ 3 2 1	
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4 ③ 2 1	

【総括・特記事項】

- 平成30年度も。病院で働く臨床工学技士との連携の強化、外部意見を取り入れた教育内容の見直し、教職員の質の向上及び情報公開に取り組んだ。
- 定められた運営方針は、管理者会議、学科会議等を通じて教職員に伝達されている。
- 学校の目的、目標の達成や社会のニーズへの対応のため、各委員会・研修会を開催し、学校運営を行っている。
- 教育活動等に関する情報公開は、ホームページや学校案内、学生募集要項等で行っているが、ニーズに沿ったものになっているかどうか、適宜見直す必要がある。
- ホームページにて「自己点検・自己評価報告書」、「学校関係者評価委員会報告書」の情報公開を行い、「学校案内」、「募集要項」についてもホームページで閲覧できるようにした。
- 証明書の発行や卒業台帳の作成、卒業証書の発行などの業務のデータ化が整備され効率化を図られているが入学から卒業までの一元管理に向けて、事務側と教務側で意見交換を行っている。事務側と教務側での連携については、強化が図られており処理はスムーズに行われている。

(3). 教育活動

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1	評価委員確認
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1	
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④ 3 2 1	
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1	
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4 ③ 2 1	
関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4 ③ 2 1	
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4 ③ 2 1	
授業評価の実施・評価体制はあるか	④ 3 2 1	
職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4 ③ 2 1	
成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1	
資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④ 3 2 1	
人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④ 3 2 1	
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	④ 3 2 1	
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力 育成など資質向上のための取組が行われているか	4 ③ 2 1	
職員の能力開発のための研修等が行われているか	④ 3 2 1	

【総括・特記事項】

- 厚生労働省が指定する臨床工学技士養成施設として、法に基づきカリキュラムを編成し、適正に運営されている。
- 臨床工学技士資格取得は、カリキュラムの上で明確に目標として定められており、取得をサポートできる教育内容になっている。また社団法人日本生体医工学会実施の第2種ME技術実力検定についても推奨しており、合格に向けて指導を行っている。
- 指定カリキュラムが大半を占めるため難しい面はあるが、毎年、教育課程編成委員会の意見に基づき可能な範囲内でカリキュラムの工夫・改善への取り組みを行ってきた。とくに平成28年度からは、卒業生による特別講義の実施の増加や、クリニックでの模擬実習などを新たにとりいれた。各学年の年間予定にもとづき、特別講義の実施を行う。
- 法令により教員資格要件が設定されているため、専門分野の知識について充分なレベルの教職員を確保できている。
- 各臨床工学技士会、循環器関連、血液浄化関連の学会などにも学生に参加させ、臨床工学の学習を行う上においての刺激になるよう心掛けている。

(4). 学修成果

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1				評価委員確認
就職率の向上が図られているか	4	③	2	1	
資格取得率の向上が図られているか	4	3	2	①	
退学率の低減が図られているか	4	③	2	1	
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	③	2	1	
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	④	3	2	1	

【総括・特記事項】

- ・ 臨床工学技士国家試験対策、面接指導等、就職に向けての指導を行っているが、とくに国家試験の合格率が一時期に比べると下がってきてている。資格取得に向けての意欲の低下がみられる。
- ・ 平成30年度では3年次で、就学・資格取得への意欲減退の理由から退学者が1名あった。学生、保護者との面談の充実、細かな目標設定、病院見学による将来像の再確認等を行い、退学者の低減を図る必要がある。
- ・ 平成30年度の臨床工学技士国家試験の結果は68.0%となり、昨年と比較して合格率をほぼ同じであった。また、国家試験合格率が全国平均を下回った。残念ながら7名の不合格者がでており、あくまでも全員合格を目指す。不合格者については聴講生として、特別な講義を行い基礎からの勉強を徹底して行っている。まずは第2種ME検定試験の合格をめざす。また、臨床工学専攻科の授業にも参加してもらい、来年度の国家試験合格を目指す。現在多種多様な学生さんが入学しており担任一人だけでは対応するのが困難な状況になりつつある。他学年の担任も含めて今年度からは3年生に対して毎週補講を行っている。国家試験の勉強を行うにあたりのきっかけになればと考えている。
- ・ 一部の卒業生については、学校との密接な関係を持っている。医療現場で活躍しており、学生が将来像を描く際の良い見本となり、また、学生の就職にもつながっている。平成27年には臨床工学科の同窓会組織を発足し、学校側と同窓会側で緊密に連携を行い学生にとって有益な情報の提供や、特別講義の実施や病院内での模擬実習を行っている。
- ・ 昨年5月に1年生と3年生を対象とした卒業生による特別講義を実施した。1月に1年生対象の病院見学を行った。
- ・ 臨床実習時に患者対応に困らないように、2年生を対象として1月には卒業生のいるクリニックにおいて、患者さんへの対応を模擬して実習を行った。平成30年度も多数の卒業生の方に参加していただき、臨床実習に行く前に患者さんへの対応での知識と技術を習得する機会を得た。
- ・ 平成30年度も同窓会組織と連携し、国家試験終了後に有志の卒業生による「就職説明会」や「なんでも相談会」を3月に実施した。3月末以降にも就職未決定者に対して同窓会組織より、各卒業生のいる病院に呼びかけを行い即応性の高い情報を得ることができ、早期に就職が実現している。また社会に出るにあたって卒業生に聞く機会を設けた。
- ・ 有志の卒業生により、同窓会組織とは別の組織として「日本メディカル工学研究会」を平成29年度に立ち上げた臨床工学技士の業務の範囲を超えて、日頃の研究成果を発表し、今後の仕事でも有益な情報の交換を行った。平成30年度は臨床工学科の1年生、2年生、3年生にも参加させた。卒業生との交流に役立てばと考えている。

(5). 学生支援

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1	評価委員 確認
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1	
学生相談に関する体制は整備されているか	④ 3 2 1	
学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④ 3 2 1	
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④ 3 2 1	
課外活動に対する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1	
学生への生活環境への支援は行われているか	4 ③ 2 1	
保護者と適切に連携しているか	4 ③ 2 1	
卒業生への支援体制はあるか	④ 3 2 1	
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	④ 3 2 1	
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	④ 3 2 1	

【総括・特記事項】

- ・学級担任制により、学生の相談には主に担任と副担任が主に対応し、各学生に対する情報共有をしている。また担任以外でも学生の情報を共有し、対応できるよう心掛けている。
- ・学生が個々に就職活動をするのではなく、学校と相談の上で進路を決定する仕組みになっており、進路・就職に関する支援体制は学生にとって充実したものになっている。
- ・成績・出席の状態について学級担任より保護者に連絡しており、特に成績・出席の状態が芳しくない学生の保護者に対しては詳しく状況を説明し、学校側と保護者との連携をはかり、問題を解決するようにしている。また状況によっては懇談や家庭訪問を行うなど適切に対応している。
- ・夜間部に「臨床工学専攻科」を設置しており、看護師、臨床検査技師等で就業している社会人もキャリアアップを目指すことができる体制となっている。

(6). 教育環境

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1	評価委員確認
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	(4) 3 2 1	
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4 (3) 2 1	
防災に対する体制は整備されているか	(4) 3 2 1	

【総括・特記事項】

- 最新設備の導入・設備のリニューアルについて適切に対応しており、教育上有効に機能している。
- 実習時等の事故防止の教育体制は整備されている。
- 非常時における教職員の役割分担を決め、適切な誘導ができる体制をとっている。

(7). 学生の受入れ募集

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1	評価委員確認
学生募集活動は、適正に行われているか	(4) 3 2 1	
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	(4) 3 2 1	
学納金は妥当なものとなっているか	(4) 3 2 1	

【総括・特記事項】

- 入学事務局、広報担当、広報委員を中心に、全教職員が適切な学生募集活動を行っている。
- 平成30年度の実績から、今年度は週1回教員が高校訪問や大学訪問を実施しており、一人でも多く本校の事を知ってもらう。
- 学校案内、ホームページ等において、授業内容、資格の内容等を示しており、適宜見直し・改良しているが、より正確かつタイムリーに志願者・保護者等に伝わるものとなるよう努める必要がある
- 今年度も引き続きホームページにて「学校案内」、「募集要項」を閲覧できるようにした。
- 入学選考方法は学生募集要項に明記しており、適切かつ公平な基準に基づき行われている。
- 入学選考面接は、複数担当者にて実施している。
- 学納金は、教育内容、社会状況、学生及び保護者の負担感等を考慮して設定され、また本校独自の奨学金制度も利用できるようになっている。

(8). 財務

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1	評価委員確認
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④ 3 2 1	
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④ 3 2 1	
財務について会計監査が適正に行われているか	④ 3 2 1	
財務情報公開の体制整備はできているか	④ 3 2 1	

【総括・特記事項】

- ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえる。
- ・学校会計基準により財務諸表が作成され、予算と収支管理が行われている。
- ・財務について、会計監査が適正に行われている。
- ・学園ホームページにて、資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表を公表している。

(9). 法令等の遵守

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1	評価委員確認
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④ 3 2 1	
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④ 3 2 1	
自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4 ③ 2 1	
自己評価結果を公開しているか	④ 3 2 1	

【総括・特記事項】

- ・法令や設置基準等が遵守され、適正な運営を行っている。また各部門において、会議等を行い、より深い理解に努めている。
- ・個人情報保護委員会を設置し、教職員教育を実施している。
- ・自己点検・自己評価を実施し、問題点の改善に取り組んでいる。
- ・今年度も昨年度に引き続き、ホームページにて「自己点検・自己評価報告書」ならびに「学校関係者評価委員会報告書」の情報公開を行った。

(10). 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1	評価委員確認
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④ 3 2 1	
学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4 ③ 2 1	
地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	④ 3 2 1	

【総括・特記事項】

- ・中学校や高等学校生徒の職場体験の受入れ等を行い、各教育機関や地域との連携・交流を図っている。
- ・日本メディカル福祉専門学校として、医療法人が主催する地域住民への医学公開講座に、教室を無料提供している。
- ・ボランティア活動や大阪府臨床工学技士会が主催する献血活動を奨励しているが、参加者が少なく、普及活動の強化が必要である。

(11). 国際交流

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1	評価委員確認
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	④ 3 2 1	
留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	④ 3 2 1	
留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	④ 3 2 1	
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4 ③ 2 1	

【総括・特記事項】

- ・留学生の学習・生活指導等については、学級担任および副担任が密にコミュニケーションを取り、学習能力・習熟度・生活状況等を把握している。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ・ 学生の技術習得、就業意欲の向上のため、学生のみならず保護者に対しても、本校の教育理念・目標を明確に示し、理解を得る必要がある。そのために平成30年度も昨年度に引き続き、学生との個人面談の機会を増やし、細かな目標設定、病院見学による将来像の再確認等を行うとともに、保護者が気軽に学校へ足を運べ、学生の状況把握や、教職員との相談を行うことができる体制づくりに取り組んだ。
- ・ 平成30年度は教育課程編成委員会にて、効果的な各学年における特別講義のテーマと実際に行う時期について話し合いを行い、各学年において特別講義を実施した。今後特別講義の数を増やすべく、学生からの意見も参考にしながら実施していく。
- ・ 臨床実習において、患者さんの対応について実際に勉強するため。OSCEを用いて臨床工学科2年生に対し、卒業生のいるクリニックで有志の卒業生の方に多数参加していただき、患者さん対応の模擬実習を行い、学生の評価を行った。様々なケースでの患者さん対応を実際に体験し習得し臨床実習トラブルの解決を図った。この実習に関しては今年度も臨床工学科2年生に対して実施する方向で調整している。
- ・ 平成30年度も昨年度に引き続き3月に有志の卒業生と臨床工学科3年生との間で「なんでも相談会」と「就職説明会」を実施し、社会に出るために必要な内容や病院での臨床工学技士の役割等を3年生を対象にを実施した。
- ・ 平成30年度は同窓会組織との連携により、多数の卒業生に就職情報を呼び掛けていただき、リアルタイムに求人情報をいただいている。平成30年度は昨年に比べて早期の就職が実現した。
- ・ 平成30年度の国家試験、ME検定試験の結果から、今年度より3年生に対しての補講を実施し、国家試験を勉強するにあたってのきっかけになればと考えている。第2種ME検定試験の対策についても7月～8月にかけて対策授業を実施する。
- ・ 勉強だけではなく、社会人として病院などで将来働くことを考え、挨拶の徹底や教室の清掃および実習時の人とかたづけなども自主的に行えるようになったが、次年度にはより一層指導を強化していきたいと考えている。
- ・ 今年度の臨床工学科の学生数は定員にまでいたっていないのが現状である。来年度も定員確保に向けて各教員が週に1回高校訪問や大学訪問を実施している。またオープンキャンパスに参加していただいた学生さんにメールでの連絡などを行っている。参加後の出願につながればと考えている。
また、オープンキャンパスの最低でも月1回のイベント実施、資料請求者への電話連絡等を実施していく。また、広く臨床工学技士を知つもらうため令和元年度は大阪府臨床工学技士会が8月に主催するキッズセミナーにも参加する。
- ・ 有志の卒業生により、同窓会組織とは別の組織として「日本メディカル工学研究会」を立ち上げた。臨床工学技士の業務の範囲を超えて、日頃の研究成果を発表し、今後の仕事でも有益な情報の交換を行っている。平成30年度は臨床工学科の学生にも参加させた。卒業生との交流に役立てばと考えている。また、活躍する卒業生の姿を見て学生も自分の将来像を描く形になればと考えている。
- ・ 健康増進法の改正に伴い、令和元年7月1日より学校裏の喫煙場所を禁煙にし、喫煙場所を一部限定し、分煙を試みました。
- ・ 今年度は高等教育の修学支援制度に対して大阪府へ申請を行います。